

[第903回ゼミ報告] 2025年6月6号

2024年に生れた子は68万8千人、出生率は1.15、団塊の世代から4分の1に減少。将来予測より15年早いと。さてマルサスの人口論は何と…
5月28日ゼミは、佐々木隆治『マルクス 資本論』第1篇「商品と貨幣」第1章「商品」1・2節を後藤さんの報告で行いました。「なにごともしはじめが難しい」この章が1巻の中で最も難しいと。巨大な商品の集まり「富」が商品の形態、資本主義社会での諸現象の根本原因。商品の有用性を使用価値とし、商品交換により「交換価値」を持つ。交換関係では使用価値は捨象され、商品は抽象的人間労働に還元され、商品の共通物として「価値」の大きさにより交換価値が決定される。ただし、価値が抽象的人間労働そのものではなく、抽象的人間労働が労働生産物の属性であること、それが『資本論』理解の重要なポイントである。資本主義社会は諸使用価値が交換され、有用労働により社会的分業が形成される。抽象的人間労働が常に価値を形成するのではなく、抽象的人間労働が対象化され、生産物の属性になったときに価値を形成し、それが価値になるのは、自立的・独立な私的労働を形成する場合であり、本格的には第4節で展開される。この前提は、労働力が商品化され資本と賃労働が交換される階級社会・資本主義的生産様式が支配的な社会である。報告者からは新しい未来社会形成で、前近代的共同体をどう考えるか、晩期マルクスが原古的共同社会の相互扶助・共同労働を論じている。討論では、サービス労働は価値を形成するのか、価値を形成しないという従来の説に対し、飯盛信男は価値を形成するとし、また佐々木隆治も同様であり、また二宮厚美は社会的サービス労働を論じている。病院の食事と家事の食事とでは、社会的労働として後者は価値を生まない。エンゲルスは単純商品生産社会として小商品生産者の存在を論じるが、そのような段階は歴史的には言えない。他人のための使用価値は社会的使用価値でもあるが、全てが商品とはならない。江戸時代中期、農村共同体の変化があるが武士は別。会場参加は川口さん・高田、オンライン参加は小野さん・竹内さん・後藤さん・田中さんの合計6名の参加でした。

* 6月11日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 876 1272 7182 パスコード: 125668

* 6月25日(第4週)ゼミの報告者は井貝さんの予定でしたが、事情により参加できず、当日の報告者を募り、次回ゼミで決めます、よろしく

***** ゼミ日程 *****

6月11日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
グレーバー『万物の黎明』5章 いく季節もむかしのこと 報告者後藤さん

6月25日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
佐々木『マルクス 資本論』1編 1章商品 3・4節 報告者未定

7月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
グレーバー『万物の黎明』6章 アドニスの庭 報告者未定

その後 7/23 [アイクルの部屋] 9/10, 9/24, 10/8, 10/22, 11/12, 11/26